

OPINION 添乗員派遣事業における「人財づくり」

旅行業界の営業最前線での活動から添乗員派遣業界への転身、本年1月より近畿日本ツーリスト(株)・関東営業本部長職よりツーリストエキスパートを預かることとなりました。今般、TCSA事務局から寄稿依頼を受けまして業界動向に関する所感を述べさせていただきます。

業界における人材育成

IT戦略のめざましい進捗の産業界の中において、この業界に関しては先輩諸氏より幾度となく提言を頂いており、その論旨にも謳われておりますように添乗員派遣業の業界では「人と人」のいろいろな局面でのかかわりが事業の成否に影響するものであるとの結論を示されております。

こうした展開の中、業界経営に携わる身においてみますと一朝一夕に完遂できることではなく、連綿とした人的施策・交流の中から創造されてくるものと認識している次第です。即ち、現在の成果主義を軸とするドラスティックな人物評価よりも我が国で古から醸成されてきた「人の本質」を第一義的に考えるところに回帰するスパイラルな状況が浮上してきます。従って、技術革新が如何に躍進を遂げようとも、この業界における「人的財産の確保と育成」はその事業を成功裡に進めるための必須の条件といえます。「人材=人財」と比喻されるが如く、ツアーでの添乗員とお客様の関係は「人対人」と表されるものであり、業界がこの取組みを重視している実情は明白であります。この人材育成はその環境が非常に重要な位置付けとなります。「ひとりの添乗員」として社名を背負い、業務執行に邁進するために「個」の能力に適正な教育と訓練が求められます。その適環境は「熱過ぎず、ぬる過ぎず」を旨として、適切な指導を施すことが肝要とされて「個人の特性」をも考えながら、「人を接遇するに値する人材づくり」に結びつけるということになります。併せて、育成された添乗員が後進の方へも大きな影響と目標を与えることも忘れてはならず、日々の管理から長所を引きだして本人のブラッシュアップはもちろんのこと、後進の方への「模範」との自覚も必要となります。

添乗員の高齢化と若年層の減少

添乗経験を積み重ねて「ベテラン」の域に至る方と途中で転職やリタイアとなる方に二分化、高齢化の進捗は止めようがない状況に陥っ

ている昨今、その構図は我が国の人口構成形態の「少子高齢化現象」に酷似しております。ベテラン領域組がそのまま構成する年齢を押し上げる形で進み、若年層の定職率が低い為、後継者育成そのものが危機的状況になっていることは否めず、業界の懸案事項となっています。そこではこのベテランの存在も擁護しながら若手獲得への促進も疎かにすることはできません。若者の中には「添乗員の仕事」に興味を示す方も居られますが、説明会や研修の中で消極的な或いは否定的な感覚にとらわれ、仕事の本質に至る前に離脱してゆくケースが散見され、お客様との関係づくりが難しいという外見で嫌われることも少なくありません。

一方、先日の「ツアーコンダクターオブザイヤー 2014」の準グランプリの誉れに浴した当社添乗員が昨年6月より本年3月まで有力地方紙を含む19紙に取り上げられ、社会にその存在を示したことは記憶に新しいところですが、しかしながら、「添乗員の仕事」を就業選択肢の一つとして確立するにはまだまだ多くの時間が必要となります。何故ならば、添乗業務自体の「裏方・奉仕的位置づけ」が払拭されておらず、特殊領域の職業として捉えられがちで、労働力若年化が阻まれていることも要因の一つと考えられます。そうした状況の中、「添乗業務の魅力」を添乗員候補生の専門学校生等に如何に啓蒙し、——“家族旅行から遠足、修学旅行を経て卒業記念旅行へと続き、新婚旅行へとつながり、ご夫婦旅行へと至る”——こうした一連の流れを生活サイクルにリンクして考え、「社会貢献の一翼を担い、夢のある仕事」であるという職業メリットを普及・浸透させたく考えます。

以上のように「業界内の課題」と目されるこの2題(人材育成と高齢化・若年層の減少)に関しては事業体個々の努力では限界があり、業界全体としての「社会へ向けてのアピールと取組」を緊要の解決すべきこととして強く認識し、推進してゆくことを提案します。そこで、私自身も微力ながら共に活動して参りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



TCSA理事
株式会社ツーリストエキスパート 代表取締役

倉橋 修蔵氏

CONTENTS

OPINION ————— 1

添乗員派遣事業における「人財づくり」
株式会社ツーリストエキスパート
代表取締役 倉橋 修蔵氏

特集 ————— 2

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2014 表彰式
& 職業フェア開催

TOP INTERVIEW ————— 4

株式会社 阪急交通社
松田 誠司氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 6

「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2014」
受賞者決定!

TCSA REPORT ————— 7

添乗あれこれ〜添乗の現場から〜 第7回
2000日添乗員のゴツゴツ奮闘記 ⑤

TCSAだより ————— 8

運輸局長表彰 救命救命「普通救命講習」を東京で実施します!
「優良派遣事業者認定制度」の「審査機関」に認定されました
会員動向 編集後記

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2014 表彰式 & 職業フェア開催

今年で9回目を迎える「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2014表彰式」と観光業界に関心のある学生を対象とした「ツアーコンダクター職業フェア」を去る9月26日(金)東京ビッグサイトにおいて、旅行業界の一大イベント「ツーリズムEXPOジャパン」業界日の会場内ステージで開催しました。

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2014表彰式

この表彰制度は、日頃、旅程管理・安全管理のほか、価値ある旅の演出を試み、顧客満足を高めるために努力、研鑽を重ねている添乗員に光を当て、添乗員として誇りを持って働き、プロの添乗員全体のモチベーションアップに少しでも助力となることを目的に創設した制度で、国土交通省、観光庁、観光関係団体の後援のもと実施しています。

今回は添乗員派遣会社・旅行会社合わせて9社から16名の推薦があり、早稲田大学名誉教授・エジプト考古学者の吉村作治氏が委員長を務める「選考委員会」にて厳正なる審査を行い受賞者を決定しました(受賞者の詳細は6ページ参照)。

この表彰式では、グランプリ(国土交通大臣賞)【受賞者:(株)JTBサポートインターナショナル所属 柳田 実氏】、準グランプリ(観光庁長官賞)【受賞者:(株)ツーリストエキスパーツ所属 田中 麻実氏】、選考委員会委員長賞【受賞者:(株)トップ・スタッフ所属 清 由美氏】、日本添乗サービス協会会長賞【受賞者:(株)フォーラムジャパン所属 三苦 匠氏】の表彰を行いました。

表彰式の司会は(株)阪急トラベルサポート所属添乗員 植竹幸恵氏が担当し、TCSA山田会長より開会挨拶

の後、来賓としてご臨席いただいた観光庁蝦名審議官にご挨拶いただき、受賞者への表彰状・副賞の授与及び受賞の喜びの声、吉村委員長の講評の流れで進められました。

受賞者への副賞として、賞金のほか、協賛会社であるサンコー鞆(株)よりスーツケース、はるやま商事(株)よりスーツ(アイスーツ)、シャツ(アイシャツ)、ウォッシュャブルパンプス等が授与されました。

当日は添乗員、添乗員派遣会社、旅行会社、学生、業界関係者約150名が出席し、盛大に表彰式を開催することができました。

来年度も「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2015」を開催予定で、推薦者の募集は来年4月を予定しています。

表彰式全体写真

(上段左から
吉川委員、吉村委員長、
観光庁蝦名審議官、
TCSA山田会長、
清水委員、
下段左から
(株)フォーラムジャパン 深井氏
(会長賞代理出席)、
(株)トップ・スタッフ 清氏
(委員長賞)、
(株)ツーリストエキスパーツ 田中氏
(準グランプリ)、
(株)JTBサポートインターナショナル
柳田氏
(グランプリ))



表彰式司会者((株)阪急トラベルサポート 植竹幸恵氏)



観光庁蝦名審議官



吉村委員長講評



表彰状授与(グランプリ)

ツアーコンダクター職業フェア

表彰式に引き続き、観光業界に興味関心のある学生に対して、ツアーコンダクターという職業の魅力ややりがい伝える場として職業フェアを開催しました。

今回の職業フェアは二部構成で実施し、第一部を現役ツアーコンダクターの体験談、第二部は楽しみながら業界のことを知ってもらうことを目的とした「添乗〇×クイズ」を実施しました。

第一部「現役ツアーコンダクターの体験談」は、(株)TEI所属 佐佐木 享子氏司会のもと、「パッケージツアー担当」、「オーガナイザーツアー担当」、「イベント業務担当」の3つにカテゴリを分けて、それぞれの業務を中心に従事しているツアーコンダクター3名(ダイヤモンドシステム(株)所属 高橋 美香氏、(株)TEI所属 高橋 吉邦氏、(株)フォーラムジャパン所属 富永 良子氏)から各業務の内容や職業の魅力、思い出に残っているエピソード等を話してもらいました。

職業フェアには大学、短大、専門学校の学生約130名が参加し、現役ツアーコンダクターの話に食い入るように聞き入っていました。

学生からのアンケートでは、「現役ツアーコンダクターの方から直接話が聞けて良かった」、「オーガナイザーツアーやイベント業務のことは知らなかったのでもち勉強になった」、「大変な仕事だけどとてもやりがいのある仕事だと思った」、「現役ツアーコンダクターの方が笑

顔でハキハキと話している姿がとても印象的だった」等の感想をいただきました。

また、第一部の後半では、事前に学生の方々から集約した「質問」に対して現役ツアーコンダクターが回答する「質問コーナー」も実施し、「ツアーコンダクターになるためにはどうしたらいいか?」、「添乗中困ったエピソードは?」、「どの程度の英語力が必要?」、「取っておくと良い資格は?」等の質問について回答してもらいました。

参加した学生の方々がツアーコンダクターの回答を一生懸命メモする姿がとても印象的でした。

第二部では添乗にまつわるクイズを〇×形式で出題する「添乗〇×クイズ」を実施しました。

第二部の司会は(株)トップ・スタッフ所属添乗員 田代 郁子氏が担当し、スクリーンに問題が映し出され、回答が発表になると会場は大盛り上がりとなり、勝ち残った数名にははるやま商事(株)より提供いただいたキャリアバッグや、TCSAからカリスマ添乗員の体験談等を集約した書籍「地球まるごと私の仕事場!」やQUOカード等が贈呈されました。

多くの学生が最後まで参加し、「楽しく業界のことを知ることができた」、「このような機会をもっと設けて欲しい」といった声も多く聞かれました。

TCSAとしては今回のような職業の魅力ややりがい伝えていく場を今後も継続して行っていきたいと考えています。



第一部司会者
(株)TEI 佐佐木 享子氏



第二部司会者
(株)トップ・スタッフ 田代 郁子氏



体験談ツアーコンダクター
(左から ダイヤモンドシステム(株)高橋 美香氏、(株)TEI 高橋 吉邦氏、(株)フォーラムジャパン 富永 良子氏)



〇×クイズ風景



INTERVIEW

トップ・インタビュー

第71回ゲスト

(株) 阪急交通社 代表取締役 **松田 誠司**氏

半数以上のTCSA正会員会社が全国でお取引いただいている阪急交通社の松田誠司社長をお訪ねしました。



三橋専務理事(以下 三橋) 社長ご就任から約半年が経ちますが、現在のご心境や考えをまずお聞かせいただけますか。

松田社長(以下「松田」) 現在、海外で70万人、国内で350万人のお客様に当社をご利用いただいています、そのうち8割近くが添乗員同行商品です。従って、今後、当社の取扱いの大部分を占める基盤の添乗員同行商品を、広く受け入れられるものとしていかに充実させ、お客様を増やしていくかが大きな課題と考えています。

三橋 全体の8割近くを占める添乗員同行商品の価値を高めていく上で、添乗員にはどのようなことを期待なさいますか。

商品造成に生かされる添乗員の声

松田 やはり添乗員がお客様に一番近いわけですから、添乗員に期待するというよりは、当社の中で添乗員の意見をもっと取り入れられるような体制づくりが一番大事ではないかと考えています。同行した添乗員を通じて、ツアー中のお客様の声や

要望に商品造成の担当者が耳を傾け、それらを今後に生かしていくということが大切ではないでしょうか。

三橋 添乗員はツアー終了後、必ず添乗レポートを提出しておりますが、添乗レポートには目を通されることはお有りですか。

松田 私自身が実際にツアー一本一本のレポートを見ることはありませんが、各営業本部において、担当者から本部長までが目を通し、各営業本部では、毎週、品質会議を行っており、そこで前週帰着したツアーのチェックを行っています。辛口のご意見を頂戴したツアーについては、お客様相談室指導のもと、具体的な改善策を検討しています。

三橋 御社にはインハウスの派遣会社(株)阪急トラベルサポートがおりますが、今後インハウスの派遣会社と他社独立系の派遣会社とをどのように取り扱っていらっしゃいますか。

商品価値=添乗員

松田 当社の場合、添乗員同行商品が中心ですので、「商品価値=添乗員」と言っても過言ではありません。優秀な添乗員がいらっしゃる限り、インハウスと独立系という区別は行っていません。

当社ではお客様に記入いただく「アンケート」中の添乗員評価項目データが毎週出力されるようになっています。

それがすべてということではありませんが、インハウスだから独立系だからということではなく、評価の高い添乗員が所属している派遣会社への発注シェアは増えていくし、逆は減っていくということになるため、優秀な添乗員を多く抱えている派遣会社とは自ずから取引も増えるということになります。

三橋 多くの会員会社にとって明るいお話をありがとうございます。

ところで、旅行そのものがシーズンの繁閑の差が大きく、各派遣会社にとってオフシーズンにどれだけ所属添乗員に仕事を与えるかは各社死活問題でございます。

御社におかれてはオフシーズンの商品造成はどのようにお考えでいらっしゃいますか。

松田 メーカー(航空会社、ホテルなど)目線で考えれば、繁忙期だけではなく、閑散期にも数多く売ってほしいという思いでしょうが、これでは顧客目線で商品造成を行っているとは言え



ません。

お客様に対して「良い時期に良いものを」提供していくことが顧客目線での商品づくりであり、収入構造の面からも重要だと考えています。

三橋 添乗員からするとピーク時はある程度仕事量もありますが、オフになると仕事の量が大幅に減少するため、安定した収入が得られず、生活が成り立たなくなってしまう、添乗員という職業から去ってしまう方も少なくありません。仕事には非常にやりがいを感じているのですが、満足な処遇を得られている環境にないのが現状でございます。

また、雇用に関しても、登録型の雇用が中心で、当協会の会員会社の中でも一部契約社員的な雇用も増えてきていますが、全体ではまだわずかで、大半は登録型の雇用でなかなか若い優秀な人材が入って来ないというのが大きな課題でございます。

処遇の改善は時代の流れ

松田 確かに添乗という仕事は非常にハードでありながら、恵まれた処遇ではないことは大きな問題と考えています。

インハウス(阪急トラベルサポート)所属添乗員には社会保険の加入や有給の付与など生活基盤安定のための対応を要請しました。

今後はそのような流れになっていくのではないのでしょうか。

三橋 協会でも添乗を専門職としている方の処遇改善に努めてまいります。

ところで、お客様の高齢化が進むことについてどのようにお考えいらっしゃいますか。

松田 団塊世代は顧客対象としてボリュームゾーンですが、当社としては、ニーズが多様化するそれらの方々に対してご提案できる商品群がまだまだ充分ではありません。今後、当社として団塊世代の方々により一層魅力ある商品提供ができればと考えています。

三橋 これからはどのようなデスティネーションに力を入れていらっしゃいますか。

お客様目線の商品造り

松田 お客様はまだ行ったことのない国や街に行きたいという欲求は必ずあると思います。

当社で実施したアイランドのJALのチャーターのような知らないところへ行きたい、一度行った所でも前回行かなかったところに行きたい、一人で自由に回りたい、女性だけで行きたい、一つの場所に長く滞在したいなど、より多くのお客様の要望に応えられるようなツアーを提供していきたいと考えています。

三橋 お客様も成熟してきていますし、お客様目線で商品造り

をしていただければまだまだ伸びていくマーケットでございませぬ。

今後益々良い商品が造られて添乗員の活躍の場が増えることを期待しております。

お話は変わりますが、以前、御社は訪日旅行(インバウンド)に力を入れていらっしゃいましたが、今後はインバウンドについてどのように取り組んでいらっしゃいますか。

松田 当社がインバウンドを強みとしていたのは10年以上前になりますが、9.11(同時多発テロ)の影響もあり、当社だけではなく他の旅行会社もインバウンドは縮小傾向にあって、その時に多くの優秀な人材を失ったことで数年前まではインバウンドにあまり力点を置いておりませんでした。

ただ、2年ほど前から円安傾向も後押しとなり、再度力を入れ始めたところで、今後も増やしていきたいと考えています。

三橋 以前のように専属のガイドを雇用することもお考えいらっしゃいますか。

松田 現在のところはそこまでは至っていません。

三橋 観光庁が積極的に音頭をとっているMICE事業に関してはどのように取り組んでいらっしゃいますか。

松田 訪日旅行の取扱人数としては欧米4割、アジア6割ですが、収入面で見ると逆になっています。

ただ、専門分野としてはまだまだ進んでいません。現地の企業絡みの招待旅行を取り扱う程度です。

三橋 最後にTCSAに対するご要望やご意見をお聞かせいただけますか。

松田 お客様に喜んでいただき、商品価値を高めていくという点において、添乗員と旅行会社と目的は同じで、共に歩んでいければと思います。

お客様が希望されていることに、添乗員の豊富な知識を生かして、お客様にご満足いただくことが理想であり、その点からも一層添乗員がクルーズやハイキング、長期滞在といった様々な旅行形態に関する知識を高めていくことを望んでいます。

三橋 これからも大勢の添乗員たちが御社のお世話になると存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は貴重なお話を有難うございました。本来の趣旨ではない多岐に亘る質問に対しても非常に丁寧に説明いただき大いに勉強になりました。



TOUR CONDUCTOR of the YEAR

「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2014」受賞者決定!

今年で9回目を迎えた「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー」。7月に開催された選考委員会(委員長:吉村作治氏)において栄えある受賞者が決定し、9月26日(金)に開催された「ツーリズムEXPOジャパン」のAステージにおいて表彰式が盛大に行われました(表彰式の詳細は特集記事【2ページ】を参照ください)。

第9回 受賞者

グランプリ(国土交通大臣賞) 柳田 実さん((株)JTBサポートインターナショナル所属)



昨年8月、ペルー 9日間のツアーで帰国便が機材故障でフライトキャンセル。航空会社の案内や説明も無く、現地(リマ)では欧米人やペルー人への対応が優先されるという不鮮明な対応の中、的確な情報収集と判断や日本との連絡や連携により、自身のお客様はもちろんのこと他社ツアーに参加の日本人のケアも行い、2日遅れではあったが安全に帰国させることに成功。この一連の対応に関し、他社ツアー参加のお客様よりお礼状もいただいた。旅行会社や旅行形態の枠を超えて添乗員という職業のステータス向上に對し社内でも表彰された。

準グランプリ(観光庁長官賞) 田中 麻実さん((株)ツーリストエキスパーツ所属)



若い方々の職業選択肢のモデルとして、昨年7月～ 3月までの9ヶ月間にわたり、全国の有力地方紙において同氏の活躍ぶりが掲載され、添乗員という職業の魅力付けに大きく貢献した。修学旅行を中心に、国内旅行から海外旅行のフィールドまで幅広くこなしており、特に学生等「若い方たち」の目で明るく活躍することが彼らの憧れとなって映る。「旅」という出会いの場を楽しんでいるかのような笑顔が印象的な“中堅・看板添乗員”である。また、昨年は添乗業稼働日に加えて、新人研修の引率者としても年間約14日間担当し、文字通り「フル回転」の年間添乗を苦もなくこなしている。

委員長賞 清 由美さん((株)トップ・スタッフ所属)



45年ぶりに関東が大雪となった2月14日に、1泊2日のミステリーツアーに添乗。行き先は関東の伊香保温泉。1日目は何とか日程を終えることができたが、雪の影響によりホテルは停電。2日目は大雪によりホテルから外に出られず延泊に。3日目の午後ようやくバスを出発させたが、大渋滞により車中泊を余儀なくされ、帰着したのは3日目午後ホテル出発してから24時間後のことであった。旅行会社担当者とは常に連絡を取り合い、お客様の心配・不安を和らげつつ、不平・不満に的確に対応。延泊・車中24時間という多大なストレスの中、無事に到着しお客様から喜びの声をいただいた。また、家事・子育て・添乗を両立させワークライフバランスを実践するパワフルママさん添乗員。

会長賞 三 苦 匠さん(フォーラムジャパン所属)



昨年のボストンマラソンに添乗。旅行会社の指示により自身もランナーとして参加。完走直前で最初の爆発、更に近い場所で2回目の爆発。観客が鉄柵の下敷きになっているのを見てすぐに「テロ」と直感。幸い本人怪我なく、白煙の中、周囲に被害にあったツアー客や日本人がいないことを確認後、ガイドに連絡し、沿道にいる日本人応援者と共に即刻ホテルに戻るよう指示。ガイドからお客様全員非難できたことを確認。全員無事であることを旅行会社を通じお客様の家族にも無事の連絡をしてもらった。他社のお客様が宿泊されているホテルが閉鎖のため、自身の部屋を開放する等臨機応変に対応。その場で入手できなかった「完走メダル」を添乗員が交渉し無事入手。結果、全員無事に帰国した。

優秀賞

出田 洋子さん (JTBサポートインターナショナル所属)
掛井 三郎さん ((株)ジャッツ所属)
久野 明美さん (ANAセールス(株)所属)
四十栄 麻美さん (トップ・スタッフ所属)
樋口 知枝さん (株)TEI所属

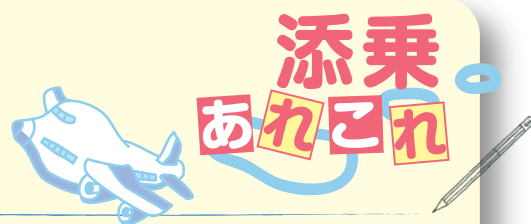
奨励賞

對馬 千保さん ((株)ツーリストエキスパーツ所属)
豊田 良美さん ((株)ツーリストエキスパーツ所属)
広瀬美由紀さん ((株)JTBサポート中部所属)
有馬 純子さん ((株)ツーリストエキスパーツ所属)
鈴木 都さん ((株)ツーリストエキスパーツ所属)
野曾由美子さん ((株)ツーリストエキスパーツ所属)
廣田 克浩さん (四国旅客鉄道(株)所属)

現場の添乗員が、添乗現場で最近感じることやエピソードを自由に寄稿いただくコーナーです。

～添乗の現場から～ 第7回

「思い出深い地」



添乗員がツアーに出発するまですでに多くの人々がそのツアーを作るために働いています。添乗員の仕事はそのツアーの最後の仕上げの部分だと言えます。そして一番魅力のある部分の仕事だと思います。

それは単に海外に行けるということではなく、お客様と向き合い、そして現地の方と触れ合えることだと思います。

そして添乗員の仕事は、日本のお客様と訪れた観光地との橋渡しだと思います。それは現地の美しい自然や街並み、あるいは現地のガイドさんやドライバーさんかもしれません。

もし日本人あるいは日本語ガイドさんでしたらもっと楽にその地に日本のお客様もなじめるでしょう。しかしガイドさんが手配されていない、あるいは英語ガイドさんの場合、添乗員がどのように紹介するかでその地の印象が変わってくると言います。

そしてお客様とどのように向き合いかわっていくのか、これが添乗員の醍醐味でもあり、戦いでもあります。苦情を言われてイヤになることもあります。しかし添乗員があなたで本当に良かったと言われたときは、その地は単なる観光地ではなく私にとって思い出深い美しい地になります。

(株)エスティーエス

なか はら やす え
添乗員: 中原 康江さん



2000日添乗員のコッコッ 奮闘記

連載 ⑤1

<イスタンブールの路地で見つけたもの>

(株)JTBサポートプラザ
松井 美樹 さん

ある時、激安トルコツアー中のことでした。

予算には限りがあるので残念ながらツアー中の食事は今一つ。お客様の表情にも不満がありあり。しまいには「世界三大料理と期待していたのに」とあからさまに声に出す方も。

『もう少しお金を出していただくと、もっといい内容なのですが…』は添乗員にとっては禁句(言いたくなる機会はゴマンとありますが)。お客様には笑顔でごまかしながらバザールへの道すがらガイドさんにばやいていると、ガイドさんは無言でいきなりある店の中に消えて行ってしまいました。戸惑っている私たちのもとに紙袋を抱えて戻ってきたガイドさん。袋の中からトルコ風肉まんを取り出し、みんなに分けてくれました。食べたお客様は皆「美味しーい♪」と大感激!

どんな高級ツアー、どんな長いツアーでも、ツアー中に私たちが見聞きできるのは、当然ながらその国のほんの一部です。

限られた日程の中で添乗員に出来ることは更に限られてきますが、そんな中、ちょっと隠れているけれど少し手を伸ばせばそこにある「肉まん」を探すお手伝い、何より「肉まん」を探そうとする気持ちのゆとり作りのお手伝いをしていきたいと思っています。



ウユニ塩湖にて

運輸局長表彰

平成26年度近畿運輸局長表彰を下記3名の方々が受賞され、8月に表彰式が開催されました。受賞おめでとうございます。

局長表彰は過去にTCSA会長表彰(永年勤続、功績、ツアーコンダクターオブザイヤー)を受賞された方を対象に、各地域の運輸局長が表彰するものです(各運輸局により勤続年数及び日数の基準が異なります)。

TCSA だより

【近畿運輸局長表彰受賞者】※勤続年数及び日数は2014年8月1日現在

谷	伊規さん	(株)ツーリストエクスパート所属	29年	4,835日
毛利	美文さん	(株)ツーリストエクスパート所属	29年	5,068日
松本	功さん	(株)ツーリストエクスパート所属	28年	4,401日

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー「選考委員会」委員就任

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー選考委員は次の方々をお願いしておりますが、来年より新たに読売新聞東京本社 南 砂取締役調査研究本部長様にもご担当いただけることになりました。

来年も多くの方々をご推薦いただけることを期待しております。

【ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー選考委員】

吉村	作治	選考委員長・早稲田大学名誉教授・エジプト考古学者
石原	大	観光庁 観光産業課長
田川	博己	(株)ジェイティービー 代表取締役会長・JATA会長
菊間	潤吾	(株)ワールド航空サービス 代表取締役会長・JATA副会長
吉川	勝久	KNT-CTホールディングス(株) 代表取締役会長・JATA副会長
清水	誠	中村学園大学短期大学部 名誉教授
南	砂	読売新聞東京本社 取締役調査研究本部長
山田	隆英	(一社)日本添乗サービス協会 会長



南 砂氏

救急救命「普通救命講習」を下記要領で実施します！

ツアーに参加されるお客様の高齢化に伴い、添乗員の方々を対象にAEDの使い方及び最低限の救命訓練を下記要領で実施いたします。

本訓練修了者には東京消防庁消防総監の「技能認定証」(3年間有効)が交付されます。

日 時：平成27年1月15日(木)

場 所：TCSA研修室

受講料：1,500円(実費)

申し込み：TCSA事務局にお問い合わせください。

優良派遣事業者認定制度の「審査機関」に認定されました

今年度より、厚生労働省が一定の基準を満たした派遣事業者を「優良派遣事業者」として認定する制度が導入されました。

TCSAは本制度の申請窓口及び審査業務を行う「審査機関」として11月17日より申請を受け付けます。

詳細については別途ご連絡いたしますが、制度の概要については下記URLにてご確認の上、是非TCSAに申請してください。

URL：<http://yuryohaken.info/> ((一社)人材サービス産業協議会専用Webサイト)

会員動向

正会員

●代表者変更 (順不同・敬称略 < >内は前任者)

キャリアロード(株)

代表取締役社長 荒内 隆 <玉越 光和>

●住所変更

(株)ティーシーエイ 沖縄営業所

新住所：〒900-0032

沖縄県那覇市松山1-1-19 JPR那覇ビル11階

電話番号：098-862-6329 FAX：098-869-2727(電話、FAX番号変更なし)

(((編集後記)))

創業以来83回発行してきたTCSA NEWSもWebの浸透により今回から紙媒体を極力減らし、Webでお届けすることになりましたが、引き続きご愛読をよろしくお願い申し上げます。(S.M)

一般社団法人 日本添乗サービス協会

〒105-0014 東京都港区芝1-10-11 コスモ金杉橋ビル6階

TEL(03)6435-1508・FAX(03)6435-1509

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL <http://www.tcsa.or.jp/>